

平成 13 年 7 月 26 日

A リーグ東部ブロック会員各位

日本ダンススポーツ連盟 (JDSF)  
A リーグ東部ブロック委員長  
山口 剛

## 日本ボールルームダンス連盟 (JBDF) 東部総局からの通知と今後について

JBDF 東部総局より 7 月 19 日付けで「登録業務に関するご通知」という文書が A リーグ東部ブロック会員に配布されましたが、事前に組織間の相談が無かったため、会員各位はもとよりブロック委員会も困惑しております。

この件についての A リーグ東部ブロック見解は以下の通りですので、会員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 〔 1 〕 JBDF からの通知の趣旨

- ・来年度の登録更新時に、JBDF 競技会に出場したい選手は、A リーグ登録とは独立に JBDF に登録が必要となる。(平成 14 年 1 月 31 日までに登録)
- ・本年度においても今後 JBDF の D 級を取得して新規に選手登録する人は(既にスタンダードもしくはラテンの片方について JBDF の認める D 級を持っていても)登録料が必要。

### 〔 2 〕 今後のアマチュア選手登録

- ・JBDF の競技会に出場したい選手は JBDF に選手登録。
- ・JDSF、JDC、JCF などの競技会に出場したい選手は従来どおり JDSF (A リーグ) に選手登録。
- ・両方の競技会に出場したい選手は両方に選手登録。  
(JBDF のみに選手登録した場合は A リーグからの各種情報配布がなくなる)
- ・今年度 JBDF に新規登録した選手は、本人の希望により A リーグへの登録資格がある。(来年度は未定)
- ・A リーグ東部では、会員の利便性を考慮してカップル変更や住所変更などの情報を JBDF に送付する。したがって従来どおり A リーグに連絡すれば両方のデータベースが更新される。

となります。

来年度の登録更新については未だ時間がありますので具体的な部分について、もう少し調整した上でまた皆様にお知らせします。

今後の JBDF の D 級登録については、登録料の徴収があることをご承知おきの上、各自の判断でお願いいたします。

### 〔 3 〕 経緯

1992年にプロの手によって財団法人JBDFが設立されるに当たって、当時の文部省の指導があり、JBDFとJDSF(当時のJADA)との間に基本協定書が締結されました。プロとアマチュアとが車の両輪として日本のダンス界を担っていくべきという視点で相互に協力関係を保つこと、次にJDSFが社団法人化する際はJBDFが全面的に協力するという趣旨でした。その後、この精神に基づきJBDFはアマチュア管理をできるだけアマチュア自身に任せるという方針を維持し、アマチュア選手の登録管理もAリーグが責任を持って実施してきました。

一方、長期に渡って、JDSF法人化のベースとなるJBDFとの事業分担の話し合いが行われてきましたが合意されず、プロとアマチュアという縦割りの考え方ではJBDFの事業が推進しにくいとのことから、「状況が変わったのでこの基本協定書はもはや意味を持たない」との一方的な見解がJBDFより出されました。今後はJBDFがアマチュア選手をも独自に管理し、プロの下にアマチュア会員も取り入れるという形の組織化を進めていくと推測されます。

一方で、オールアマチュアの統括団体であるJDSFの立場としては、JBDFの独自アマチュア会員化によって、アマチュアが二分されてしまうことを避けるために、あらゆる努力をしてまいりましたが、残念ながら今回のJBDFの決定は変わらないようです。

### 〔 4 〕 JDSFの方針

JDSFとしては、アマチュア現役選手の立場を最重要と考え、さらにダンススポーツがオリンピック種目に入ろうとしているという観点から日本のダンススポーツの発展を総合的に考えたときに、当面はJBDFとの争議は避け、以下のようにするのがベストと考えます。

#### ・競技会のオープン志向

国内競技会については、企業、JBDF、他のプロ団体、または個人など、どこで主催されても、正しく運営された競技会であればそれに制限を加えたり、また選手の出場を制限するようなことはすべきではない。

競技会主催者は、切磋琢磨によって魅力的な競技会を提供するようになるので選手にとって望ましい。

- ・JBDF(プロ教師中心、日本レクリエーション協会傘下で文化としてのボールルームダンスの振興)とJDSF(アマ中心、IOC/IDSF・日本体育協会傘下でスポーツとしてのダンススポーツの振興)とは、主たる組織目的が異なることから、各々の組織目標に向かって各々の団体が努力することで、ダンス界全体の発展に寄与できる。

- ・JDSFではダンススポーツの国民体育大会参加、オリンピック参加に向けたわが国の選手育成準備などを行っており、サークルを基盤とした地域活動

の活発化による若年層への普及施策などにより、ダンススポーツをより身近なものとして大きく発展させていく。

- ・オリンピックなど国際競技レベルを考えた時、現在わが国のアマチュア選手とプロ選手とは「どنگりの背比べ」的状况にある。選手の飛躍的な技術力向上の為には、従来のプロ教室を中心とした育成方法だけではなく新たな指導法の確立が必要。JDSF では大学や体育協会の協力を得て科学的なアプローチに着手している。
- ・JDSF では上記のようなダンススポーツの発展に賛同する JDC、JCF、そして JBDF からの賛同者などと積極的に協力しあってダンススポーツ競技のレベルアップを図る。

#### 〔 5 〕 文部科学省による JDSF 社団法人認可に向けて

さる 7 月 19 日、文部科学省、JDSF、JBDF との三者会議の場で JDSF の法人化に向けた話し合いが行われました。（別紙にその際の資料「JDSF 社団法人化の趣旨」を添付）

文部科学省としては、これを受けて JDSF 法人化の具体的検討に入りました。

今後 JDSF では社団法人認可を得て公益事業の規模を拡大するとともに、これまで以上にアマチュア選手の意見が反映される形でアマチュア競技会の充実を図りたいと考えています。また、IOC に繋がるオリンピックの責任団体として、選手強化のための各種施策の実施、国民体育大会の実現など、わが国のダンススポーツの新たな次元での発展に寄与して行く考えです。

以上、趣旨ご賢察の上、皆様のアマチュア活動へのご理解とご支援をお願いする次第です。

以上。